

定期的に受けましょう

がん検診



「こころのまなび」にて
がん患者の心のケアに
ついての動画を配信中
[https://square.umin.ac.jp/
kenko/kokoronomanabi.html](https://square.umin.ac.jp/kenko/kokoronomanabi.html)

医療機関のご担当皆様

本ニュースレターを薬害HIV感染被害者の
皆様に配布しております。
医療機関の皆様もご査収いただければ幸いです。

薬害HIV感染被害者のみなさま

このニュースレターを主治医など医療機関の皆様へお渡しください



肝炎治療が終了しウイルスが排除されても、「肝臓がん」が発生する可能性があることがわかってきました。
この研究班で施行したアンケート調査で、「肝臓がん」に罹患した方は、7割を超える方がすでにC型肝炎ウイルスを排除された方であることがわかりました。

下記にひとつでも該当していた方は、主治医に次のことを相談しましょう。

- B型肝炎と診断されたことがある**
- C型肝炎と診断されたことがある**

- 1年に1-2回、腹部エコー検査などの画像検査、腫瘍マーカーの測定を行い、「肝臓がん」がないかを検査しましょう。
- 検査の内容・間隔は、肝臓・消化器専門の医師と相談して決めましょう。

がん検診で悩んだら以下にご相談ください。
研究班で検診の上、回答します。



非加熱血液凝固因子製剤による
HIV感染血友病等患者に合併する
腫瘍への包括的対策に関する研究班
✉ kenko@ims.u-tokyo.ac.jp

薬害HIV感染被害者の皆様へ



東京大学
医科学研究所

四柳 宏

私たちの研究班では、令和4年4月から被害者の方も交え、“がん”をどのように乗り越えるのか皆で検討を行ってきました。被害者の方に見られるがんで最も多いのがC型肝炎ウイルスによる肝細胞がんです。

肝細胞がんはウイルスを排除してから後も発生することがあります。早期発見のためには半年に1度は画像(超音波・CT)検査、血液検査(AFP, PIVKA-II)を行うことが望まれます。

被害者の方がかかる肝細胞がん以外の“がん”には、消化器がん、肺がん、血液がん(悪性リンパ腫、白血病など)があります。

こうしたがんを早期に発見し、治療するためには健康診断を受けて頂き、早期に発見して頂くことが大切です。ブロック拠点病院には様々な検診プログラムがありますが、今後少しずつ検診を受けて頂く機会を広げていきたいと思えます。

Tidbits on The Cancer Screening

日本人が一生のうちにがんと診断される確率

2人に1人以上^{*}

※2019年データに基づく



女性 51.2%



男性 65.5%

出典:『国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」最新がん統計のまとめ』

厚生労働行政推進調査事業費(エイズ対策政策研究事業)

非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者に合併する腫瘍への包括的対策に関する研究

研究代表者 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター感染症分野 四柳 宏

URL:<https://square.umin.ac.jp/kenko/> Email:kenko@ims.u-tokyo.ac.jp